

## 九 佛我一體の徹底境

徹底の境に達する、融合致一、自他を泯亡して其の間寸隙も許さぬ境地に住す。大燈國師に

座禪せば四條五條の橋の上、行き來の人を深山木と見て

の歌あるは何人も知る處。天桂禪師之を擧して云ふ。山僧は然らず、

座禪せば四條五條の橋の上、行き來の人をそのまゝに見て

と。活物を擬するに死物を以てするか、活物を活物として、以て死物に對すると異なるなき心術を有するか、其の間差寸毫の如くにして、而も徹未徹の境自ら分ち得べし。既に大悟して動靜を泯亡せしむ、何ぞ人を擬するに深山木を以てするの要があらうぞ。

一遍上人念佛三昧に入つて

稱ふれば佛も我もなかりけり、南無阿彌陀佛の聲のみぞする

と云へるに對し、これ未徹底なり、佛我一體、聲何が故に遺れる。更に參究一番するを要すと云はれ、熟慮數年、終に

稱ふれば佛も我もなかりけり、南無阿彌陀佛南無阿彌陀佛

乾坤一如、念佛以外に一事なきに徹底して、眞に一遍上人たるを得たのである。

黃蘗の獨堪、かつて念佛上人に問うて曰く、「汝の年多少ぞ」答ふ「彌陀と

同年」。「彌陀の年多少ぞ」。「我と同年」。あなたはお幾歳でございます。阿彌

陀様と同じ年でございます。さらば阿彌陀様はお年幾歳でございます。私と同年で

ざる。我か佛か、佛か我か。「南無といへば阿彌陀來にけり一つ身を、我とや

いはん佛とやいはん」。佛凡一體機法無碍。彌陀は久遠の古佛、私は久遠の古

凡夫、彌陀と私はおない年、古い事云や同じ事」。面白いでないか。

昔は、一蓮院秀存師の許に、五六人の同行集つて法義聽聞す。師感極まつて「そのまゝのお助けぢや」。座中の一人「このまゝの御助けでござりますか」「イヤ違ふ」。他の一人「このまゝの御助けでござりませう」「イヤ違ふ」との仰せ。皆さん如何した譯でせう。そのまゝの御助けと仰しやるのを、このまゝの御助けかと申せば違ふと云はれる、變でせう。同様にみんなにも解らなんだとみえて、「もう一遍仰しやつて下さいませ」。さうか「そのまゝの御助けぢやぞや……」。言終らざるに、他の同行「有難うございます……」。それでよい」とお許になつた。そのまゝの御助けぢやぞや。有難うございます。お受するばかり、その外に何もないではないか。こゝに偉大なる徹底味が存する。

美濃田代町のおせきと云ふ女。香樹院御來化の時、手水桶をさげて、お庭前へ參つたる時、師は俄に、「おせき、極樂參りはどうぢや？」餘りの出拔けに、おせき周章てるかと思ひの外、「ハイ、これなりで御座ります」と直に申上げたので、師は莞爾、「おせきはよく聽聞したナア」。